

「百人隊長コルネリウス、幻を見る」

2016年05月10日

使徒言行録 10 章 1 節～8 節。さて、カイサリアにコルネリウスという人がいた。「イタリア隊」と呼ばれる部隊の百人隊長で、信仰心あつく、一家そろって神を畏れ、民に多くの施しをし、絶えず神に祈っていた。ある日の午後三時ごろ、コルネリウスは、神の天使が入って来て「コルネリウス」と呼びかけるのを、幻ではっきりと見た。彼は天使を見つめていたが、怖くなって、「主よ、何でしょうか」と言った。すると、天使は言った。「あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。今、ヤッファへ人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、革なめし職人シモンという人の客になっている。シモンの家は海岸にある。」天使がこう話して立ち去ると、コルネリウスは二人の召し使いと、側近の部下で信仰心のあつい一人の兵士とを呼び、すべてのことを話してヤッファに送った。

カイサリアは地中海に面し、ローマのためにヘロデ大王が作った港湾都市で、ローマの総督ピラトの官邸があった。この町には、多くのローマ兵が駐屯していた。水道橋や大きな円形劇所があり、ローマ兵たちがローマを恋しがりながら、娯楽を楽しんだらうことが偲ばれる。その中に「イタリア隊」と呼ばれていた部隊にコルネリウスという百人隊長がいた。「イタリア隊」はローマ市民の有志による補助部隊だったそうである。「百人隊長」は戦場の最前線で指揮する最も危険な立場にあり、激戦を経験した戦争のプロフェッショナルであった。主イエスを十字架刑に処する時、その責任を負った百人隊長は、主イエスが息を引き取るまでの姿を見て「本当に、この人は神の子だった」と言った。戦場で多くの死者を見て来た彼も、主イエスの最期に深い感銘を受け「聖なる方」を見たのである。彼が異教徒の中で、最初のキリスト告白者となっている。福音書と使徒言行録には、百人隊長や千人隊長が数人登場している。彼らは皆、主イエスに対し、また、キリスト教徒に好意的である。

コルネリウスは一家そろってユダヤ教に改宗していたと思われる。信仰の篤い人で、神を畏れ絶えず祈りを捧げ、ユダヤの貧しい民衆に施しをしていた。異教徒がユダヤ教に改宗することはしばしばあった。マタイ福音書 23 章 15 節で、主イエスは「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからだ」と言っている。ファリサイ派の人々は異教徒をユダヤ教徒に改宗させようと懸命であった。改宗したら、前よりも悪い人になったと言う。頑ななユダヤ教徒になったのであろう。

コルネリウスが、ある日の午後 3 時頃、祈りの時間とされていた時、神の天使が入って来て「コルネリウス」と呼びかけるのを、幻ではっきりと見た。彼は天使を見つめていたが、怖くなって、「主よ、何でしょうか」と問うた。すると、天使は「あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。今、ヤッファへ人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、革なめし職人シモンという人の客になっている。シモンの家は海岸にある」と答えた。天使はこう告げて立ち去った。コルネリウスはすぐに、幻で示された通り、二人の召し使いと、側近の部下で信仰心の篤い一人の兵士とを呼び、全てのことを話して、ペトロを迎えるために、三人をヤッファに送った。カイサリアからヤッファまでは、地中海の沿岸に沿って、50 km ほどの距離である。